

(様式3)

合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート

評価実施年月：平成27年11月

1. 対象事業	都城市中央処理区合流式下水道緊急改善計画			
2. 実施主体名称	宮崎県都城市			
3. 計画期間	平成21年度～平成25年度			
4. 対象事業の進捗状況	下記の内容について、当初計画通りに実施した。 ① 汚濁負荷量の削減 ・雨天時活性汚泥法の導入（25年度に導入（実績）/25年度末までに導入（計画）） ② 公衆衛生上の安全確保 ・越流堰の嵩上げ（No.2、No.4、No.6 雨水吐室 3箇所（実績）/3箇所（計画）） ③ きょう雑物の削減 ・きょう雑物除去施設を設置（雨水吐室 8箇所（実績）/8箇所（計画））			
5. 目標の達成状況と達成の見通	改善目標 ①汚濁負荷量の削減（分流式下水道並の汚濁負荷とすること） →分流並み目標値：BOD放流負荷量30.8t/年 ②公衆衛生上の安全確保（未処理放流水の回数半減） →目標越流回数：106回/年（対策前217回/年・対策後37回/年） ③きょう雑物の削減（きょう雑物の流出防止） →雨水吐室8箇所にスクリーンを設置			
改善項目	評価指数	対策前	事後評価	改善目標
緊急改善事業	合流式下水道改善率	0% (平成17年度)	100% (平成26年度)	100%
①汚濁負荷量の削減	BOD放流負荷量	35.3t/年 (平成21年度)	28.0t/年 (平成26年度)	30.8t/年
②公衆衛生上の安全確保	年間越流回数	217回/年	37回/年	106回/年
	No.1 雨水吐	35回	4回	17回
	No.2 雨水吐	27回	13回	13回
	No.3 雨水吐	29回	0回	14回
	No.4 雨水吐	28回	14回	14回
	No.5 雨水吐	27回	0回	13回
	No.6 雨水吐	1回	0回	0回
	No.7 雨水吐	24回	0回	12回
No.8 雨水吐	46回	6回	23回	
③きょう雑物の削減	スクリーン設置箇所数	0箇所 (平成17年度)	8箇所 (平成26年度)	8箇所

改善計画をもとに事業を実施した結果、現状で改善目標を達成

6. 対象事業の整備効果の発現状況等	
<p>下水道法施行令第6条第2項に基づく吐口からの放流水質の調査結果 BOD値 18.2 mg/l (雨天時：平成26年11月30日) ※雨天時放流水質の基準値 40mg/l以下</p> <p>(降雨の観測日時) 平成26年11月30日10時30分～22時20分まで (降雨の観測地点) 中央終末処理場 (総降雨量と降雨時間) 25.0mm 10時30分～22時20分(710分間) (水質検査採取日時) 平成26年11月30日 11時00分～17時00分 (水質検査地点) 合流吐き1箇所(No.5)、中央終末処理場 1箇所 (水質算定方法) 対象降雨時において雨水吐および処理施設から放流される「汚濁負荷」、 「放流量」の総量をデータより算出して、「汚濁負荷量の総量」を「放流水の総量」で除した数値を放流水質として記載した。</p>	
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・きょう雑物削減において、新技術の水面制御装置を採用した。 ・汚濁負荷量の削減において、「雨天時活性汚泥法」及び「簡易処理の高度化施設」と従来手法(滞水池)の比較を行い、経済性等から「雨天時活性汚泥法」を採用した。 	
8. 今後の方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・(事後評価) 都城市合流式下水道改緊急善計画に基づき、これまでに「汚濁負荷量の削減(雨天時活性汚泥法の導入)」及び「未処理放流回数半減(越流堰の嵩上げ)」並びに、「きょう雑物の流出防止(スクリーンの設置)」の対策施設を完了した(平成25年度末)。 今回、改善対策施設の整備完了を受け、当該目標の達成状況について、いずれの項目においても改善目標が達成されていることを確認した。 今後は、より効率的な雨天時活性汚泥法(中央終末処理場)の運転管理を図るため、実態を踏まえた『雨天時活性汚泥法運転マニュアル』の策定に努める。 また、住民啓発やごみ捨て管理、管路・ますの清掃といったソフト対策を充実させる取り組みを行う。 	